



## 「大学入学共通テスト」のマークシート式 モデル問題例が公表されました



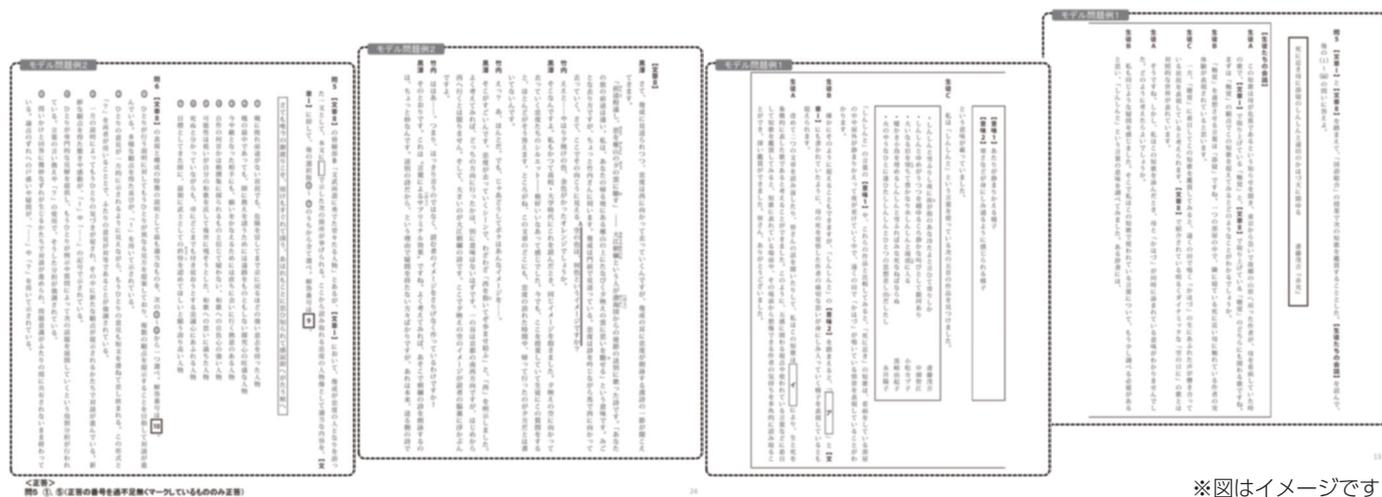
いわゆるセンター試験に代わる「大学入学共通テスト」について、先日の記述式に続き、モニター調査で出題されたマークシート方式のモデル問題例（国語・数学）が公表されました。

国語では現代文と古文から1問ずつ。現代文は、短歌を論じた文章を2つと、それについての生徒の会話文を1つ読み、問1～5（解答数10）に答えます。古文では、『平家物語』と、それを読んだふたりの人物による対談の一部を読み、問1～6（解答数10）に答えます。

現代文問1は語句の意味を問う問題、問2～4は、短歌の論評の2つの文章からの出題で、論旨を読解する設問。問5は生徒の会話文を読んで小問(i)～(iii)に答えますが、前2つの文章との関連が問われる空欄補充や読解があり、3つの文章を包括的に理解していることが重要となります。

古文の問1～3は『平家物語』「忠度都落」から、本文に即した語句の解釈問題、文法問題、文学史問題。問4～6は対談の文章からの出題ですが、『平家物語』本文と合わせての解答が求められたり、対談の表現や構成を問う設問が出題されたりしていました。

また、現代文も含め、多くの設問はセンター試験同様5つの選択肢から1つを選ぶ、あるいは、6～8つの選択肢から2つ選ぶなどの形式ですが、古文の問5では、7つの選択肢から、適当な内容を「全て選べ」という設問形式でした。これは「正答の番号を過不足無くマークしているもののみ正答」となるため、正答率がかなり低かったようです。



今回のモニター調査は「記述式問題の導入及び思考力・判断力・表現力を一層重視したマークシート式問題について、問題の条件設定や採点基準、採点体制、試験時間等の在り方など」を問題公表に向けて検証するため、実施されたとのこと。11月にはプレテストが行われる模様です。設問内容や設問数、時間設定など、今回のモニター調査から導き出される実施細目に、さらなる注目が集まるところです。





# 英文校閲者のひとりごと⑥

桐原書店の英文校閲担当者（アメリカ出身、在日歴長め）が日本で感じたちょっとしたことをつぶやきます。

## Japan's Great Pens



Since I work as a proofreader/copy editor for most of the day, I have come to seek out the best tools for my work. In our office we still rely on pen and pencil to edit our galley proofs, and luckily for me, Japan offers the world's finest selection of stationery goods. Foreign visitors to Tokyo are often astounded, as I continue to be, at the sheer variety of pens, mechanical pencils and notebooks available in stores. I must confess that I have become something of a pen snob as a result. My preferred editing pen is the Uni-ball Signo 0.38mm, which is ideal for creating fine lines, letters and proofreader's marks. Recently, I've been using an erasable blue ink MUJI 0.4 "Needle Ball Pen" when there is a chance the editing marks might be changed. For a cheap but reliable daily writing pen, nothing beats a black ink Pilot G-3 Gel pen, also 0.38mm. The international reputation of these and many other Japanese pens becomes clear when you see the various YouTube reviews on them.

Why does this country have such an obsession with developing such great pens? I think it has to do with the importance Japan continues to place on good handwriting, even in our digital device-dominated age. Viva the pen!



自身で描いた利根川（群馬県）の風景

## 日本語訳

## 日本のすばらしいボールペン

私は一日の大半を校正者およびコピー・エディター（原稿整理編集者）として働いているので、いつでも自分の仕事に最適な道具を探し求めるようになりました。私たちが働く会社では、今でも校正刷りの編集作業にはペンや鉛筆を使っていますが、ありがたいことに、日本では世界一すばらしい文房具の数々を手に入れることができます。東京を訪れる外国人は、私自身が今もそうであるように、文房具店で売られているボールペンやシャープペンシルやノートの種類のあまりの豊富さにしばしば驚かされます。正直な話、結果として私はボールペンに関しては少しこだわりのある人間になってしまいました。私が気に入っている編集作業用のペンは「ユニボール＝シグノ」の0.38ミリで、これは細い線や文字、校正記号を書くのに最適です。最近では、校正記号をあとで変えるかもしれないときは、無印良品の消すことのできる「ニードル・ボールペン青」の0.4ミリを使っています。値段が安くても信頼性が高く、日常的に使うのにふさわしいペンとしては、パイロットの「ゲルインキボールペン G-3 ブラック」に勝るものはなく、これもボール径は0.38ミリです。こうした製品をはじめとする日本のボールペンが国際的に高く評価されていることは、ユーチューブにあるさまざまなレビューを見れば明らかです。

なぜ、この国はそんなに優れたボールペンを開発することにこれほど熱心なのでしょう。私が思うには、今のようにデジタル機器が主流の時代にあっても、日本では変わることなく美しい手書き文字を大切にしていることに関係があるのでしょうか。ペン、万歳！

